



同校正門前の「アルスの森」にある彫像「輝(かがやき)」は、日展審査員も驚かした藤野英正氏の手になるもの。現在では「輝(テル)くん」と呼ばれて、みんなのアイドルになっている

設が「密集」している。そのなかにそびえるのが、今回訪問した県立国府台高校である。同校吹奏楽部は最近「鴻陵楽団」とも呼ばれるようになったが、「鴻陵」というのは同校の愛称でもある。かつて「鴻之台」とも記された、その土地の歴史から命名されたもので、応援団が存在していた当時は、この二文字を絶叫してすべての演技が始まった。現在、応援団は廃止されているが、その二文字は同校の在校生ならびに卒業生をつなぐ「合言葉」となっている感がある。来年初50周年を迎える同校吹奏楽部には当然のことながらOBもたくさんいる。卒業してからも「楽器族」を貫く人も多く、そういった熱心なOBたちがいつのころからか「鴻陵楽団」と呼ぶようになった、という。同校出身の有名人はドリームス・カム・トゥルーの中村正人氏や俳優の伊藤淳司氏、きたろう氏、作家の真保裕一氏など多士済々だが、楽器族としても現在も第一線のプロフェッショナルとして活躍しているオーボエ奏

# Best Sound Club へようこそ

第3回

## 輝け！鴻陵楽団！ 輝け！BSC

2年に一度！国内最大の楽器イベント  
～みんな集まれ！音楽みらい～  
**2009楽器フェア**  
musicfair.jp  
11月5日6日7日8日 10:00-19:00  
パシフィコ横浜

学校のシンボル「輝(かがやき)」の像の前でポーズをとってくださっているのは、千葉県立国府台高校吹奏楽部の喇叭(らっば)吹きたち。今回は、別名「鴻陵楽団」とも呼ばれる、元気なバンドでBSCを試していただいたのである

### 創立50周年を迎える伝統あるバンドで

千葉県と東京都の県境を流れる江戸川。「寅さん」で有名な矢切の渡し  
の千葉県側の一帯は「文教地区」と呼ばれ、和洋女子大、東京歯科大、千葉商科大など、一流どころの教育施

「3番スライドのストッパーがうまくできているから、使いやすい！」(山田さん)。これはヴィンテージの楽器に学んだ構造で、不用意にさわってしまわないから、ネジを落とす心配がないのである

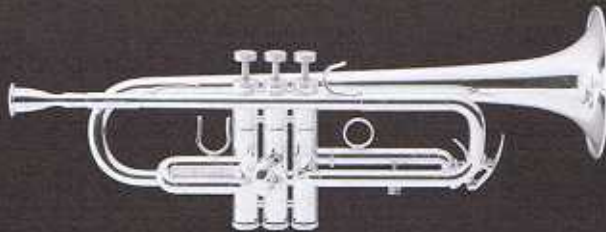


# BSC

Brass Sound Creation

from Luxembourg

- TR-501G "WM"  
¥703,500 (税込) <ケース付> 仕上げ: 510の24K金メッキ
- TR-303S "シンフォニー"  
¥417,900 (税込) <ケース付> 仕上げ: 黒メッキ
- TR-206S "オールラウンド"  
¥302,400 (税込) <ケース付> 仕上げ: 黒メッキ
- TR-106S "ニューヨーク"  
¥260,400 (税込) <ケース付> 仕上げ: 黒メッキ
- TR-105S "ミレニアム"  
¥207,900 (税込) <ケース付> 仕上げ: 黒メッキ
- TR-C01S "アルマンド" <C管>  
¥448,350 (税込) <ケース付> 仕上げ: 黒メッキ



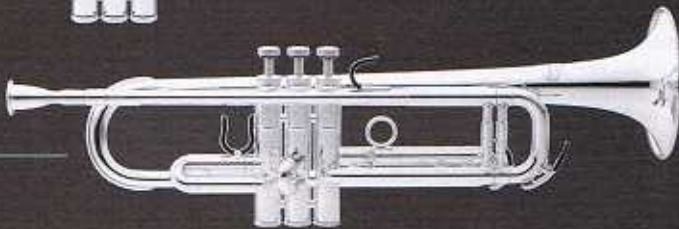
### TR-C01S

"アルマンド" <C管>

### TR-303S

"シンフォニー"

※マウスピースは付属していません





「ヴァルヴボタンの感触がいいから好きです」(村山さん)

いやいや、こちらはただ感想を聞きに来ただけですから、というと破顔一笑。元気にBSC「ミレニアム」の感想を伝えてくれた。

「この楽器、国産のと比べるとちょっとベルが小さいんですよ」

あれ？そうだった？ 開口一番のマニアックな指摘に、あらためて比べてみたら、確かに気持ちいいやいな… (実際には122ミリで、国内標準より1ミリ小さい)。

「それに、マウスパイプもちょっと絞り込んであるみたいですね」

あれ？そうだった？ 取材班も、たじたじである。詳しいのも道理、今回お話を聞きした山田さんも村山さんも、なんと小学校からトランペットに親しんでいた、というヴェテラン。山田さんは中学の先輩が「鴻陵楽団」に入った縁で入学と同時に入学し、「中学卒業したらブラバンも卒業」と思っていた村山さんは、このバンドの楽しい雰囲気ひかれて継続を決意した。ふたりとも、トランペットが大好きなのだ。入学を機に買ったもらった自分の楽器のほうが慣れている…けれど、BSCの斬新なデザインと音色に、ちょっと惹かれ始

者、伊藤量子さんやサクソ奏者の石田裕子さんなど実力者を輩出している。もちろん鴻陵楽団そのものも、昨年は吹奏楽コンクール東日本大会で金賞を受賞する実力派バンドだ。

そんな「鴻陵楽団」の、とある楽器マニアの卒業生が本誌で「BSCによるセクション効果」を追跡している、というのを知って、自らのコレクションにあったBSCの「ミレニアム」二本を後輩たちに貸してあげた、というのである。

当日、取材班が訪問すると、彼女たちがいささか緊張した面持ちで出迎えてくれた。あいさつも、どこかよそよそしい。どうも妙だな、と思って聞いてみると「せっかくなじんできたこの楽器に、今日でお別れするかと思って、さびしくて…」という。



セクションで鳴らしてみる『おそろいって、なんかうれしいな』同じBSCでそろえると、ハーモニーのあわせ方なども楽になる。なにより、仲良い同士がお互いに「同じ楽器」という安心感は、アンサンブルの上で非常に効果的だ。ちなみに「楽器フェア」では7番ブースに出展、噂のプロトタイプも試奏可能とのこと。みんなでマッピを持って遊びに行こう

めた気配。「いろいろ変わったところがあって、見ていてあきないんです」

そう、BSCにはベルU字管の「背骨」(カーブするところに一本補強が入っている)や、通称「フィッシュテール」(つば抜きや指かけが独特の形をした樹脂でカバーされている)、そしてベル部の「鳴き止め」(ブランド名を刻印したメダル)など、そんじょそこの楽器にはない特徴が盛りだくさん。

「この、おっきなヴァルヴボタンの感触が好きなんです」

と、村山さん。一見「大きく」見えて、マニアックに言うと「ヘビータイプ」と思い勝ちなのだが、実は内部は中空になっているので、軽い。軽いが、指に感じる感触は、頼りがいがある(この感触が好き、という人は確かに多いのだ)。セクション全員にBSCが回らなかったのは残念だが、自分の楽器以外とじっくりつきあえたふたりは、もっとトランペットが好き

になったみたいだ。あまり楽器の吹き比べとか、したことがなかったようだ。

「同じように見えても、これだけ違うんだな、ということがわかって、もっと楽器に興味が出てきました」

と笑顔で話してくれた二人。来年は二年生、幹部学年ですね、という表情が引き締まった。

「そうなんです。今年はコンクールには人数制限あって私たちは出られなかったけれど、来年は指導してくれる須藤先生を絶対に東日本大会につれて行ってあげたい、と心に決めているんです」

熱く決意を語ってくれたふたり。そう、今年は一点差で涙を呑んだ(同校は取材の数日前に行われた東関東大会で、金賞ながら惜しくも上位進出を逃したほどの実力校)けれど、来年こそは、きっとね。BSCとの体験が、さらなるレベルアップにつながることを信じて。



つば抜きが扱いやすい、というのはお二人に共通した意見



「これ、なんですかね？」女ざの物体の正体は、マーチング用脚台を立てるための穴でした

## ヨーロッパのハンドメイドが培った完成度

ヨーロッパ発。オーケストラでもアンサンブルやソロでも、卓越した表現力と吹きやすさで、いま最も熱い視線を浴びるトランペット、それが「BSC」



あるメーカーの楽器を30年以上もの間使い続けてきたが、これを上回る楽器にはもう巡り合わないだろうと思っていた。ところが、ところが、ホント生きていて良かった！

BSCは「吹きやすい」とか「音程が良い」とかの次元ではない。とにかく「音楽しやすい」のだ。

特に「音色が素晴らしい」「柔らかくて力強く、ヨーロッパの品位が感じられる。」

百聞は一見に如かず。試してみることを是非お薦めしたい。

NHK 交響楽団 首席奏者 関山 幸弘



日本総輸入元

有限会社 **セレクト インターナショナル**

〒272-0836 市川市 北園分 1-8-2

e-mail : info@select-inter.com

TEL : 047-374-0792 FAX : 047-372-2704

URL : <http://www.select-inter.com>